

## ✿ 発掘調査の概要

### 石神遺跡の調査(飛鳥藤原第150次)

1981年から本格的に始まった石神遺跡の発掘は、前回の19回目の調査(飛鳥藤原第145次調査)において、ようやく阿倍山田道を確認しました。これによって石神遺跡南限から始まり、ひたすら北進を続けてきた長旅に一区切りがつかしました。

過去の調査成果を振り返ると、2000年度、2001年度の調査では、石神遺跡の建物群の北限となる、東西方向に走る塀の柱穴列と石組溝を確認しています。今回の調査は、将来の石神遺跡の史跡指定を念頭に、この建物群の北限が東側へどのように延びていくのかを明らかにすることを目的としています。10月1日、今度は東へ向かう旅路が始まりました。

今回の調査区の面積は約400㎡、田んぼ2枚の中で東西に細長く、2区画(西区と東区)に分かれて発掘します。スタートとなる西区西側では、想定していた柱穴列と石組溝が早速顔をのぞかせ始めました。しかし、同時に石神の名にふさわしく、無数の小石や人頭大の石が一面に現れ、我々を悩ませています。微妙に斜行する石列や蛇行する石列もあり、どうやら想定外の石組溝がありそうです。

一方、東区ではすんなりと東西に横切る柱穴列が確認できました。しかし、想定北限ラインから北に約1mずれているのです。こちらも簡単には東進してくれません。

北限の遺構がどのように東へ続くのか、多くの石組溝には何が沈んでいるのか、悩みも楽しみも多く待っていそうです。

(都城発掘調査部 黒坂 貴裕)



斜行石組溝の発掘状況(南東から)